

令和2年度第1回滝沢市環境審議会意見等一覧

議 事	令和元年度滝沢市環境年次報告書について
意 見 等	<p>環境基本計画の見直しまで2年を残すのみとなりました。今年度末までに、見直しに向けた方法、プロセス、スケジュールを固める必要があります（環境審議会を1、2回開催してまとまるものではないと認識しています。）。時代に合った重点化、章立てなど。</p>
	<p>(1) ごみ減量化の取組状況として、滝沢市ごみ減量化推進委員会の活動状況も取り入れる等、もう少し取組状況が具体的に見えるものにして欲しい。</p> <p>(2) 「5-2 騒音、振動、悪臭の防止」について、「騒音」についての実施状況は記載されているが、「振動」及び「悪臭」についての記載が見当たらない。これは、地域住民からの相談・苦情が寄せられていないので、実際に調査がなされていないのか。庁内で情報が共有されているのか疑問が残るところ。</p>
	<p>(1) P 9 水生生物調査の実施は休止となっておりますが、環境教育の面からも意義は高いと思いますので、検討ではなく実施を望みます。</p> <p>(2) P 30 ごみ排出量減量化を進めるため、地域別の現状数値から重点的な対策の実施を提案します。</p> <p>(3) P 42 たきざわエコオフィス計画の推進では、施設別の実績も明示することにより推進を促すことができると思います。</p> <p>(4) P 52 河川の水質調査の実施では、大腸菌群数が環境基準を下回っていますが、住宅からの汚水、雑排水の流入が無いかの調査も必要かと思われます。</p> <p>(5) P 72 地域課題解決講座での「SDGs」の説明を入れてほしいと思います。</p>
	<p>P 53 水質汚濁、河川の水質調査結果値で「大腸菌群数の急増」はどのような要因があったのか。（想定ですが、サンプリング地点には豚舎などが設置されているのですか。）。</p>
	<p>(1) たきざわ環境パートナー会議（進行管理委員会）との協働も含めた所定の手続きに基づき、環境年次報告書が作成されています。</p> <p>(2) 本報告書に掲載されている基本的施策・関連事業で多くが実施・達成されています。一方、ごみ減量の推進は、横ばいに近い微増で、ごみ減量化行動計画の数値目標達成には足踏みが続いている難しい課題です。住民増加率より家庭系ごみ排出量・可燃ごみ排出量増加率の方が上回っているため、1人・1世帯当たりの家庭系・可燃ごみ排出が微増していると推察されます。今年7月からの小売店レジ袋有料化の効果など市外の実施の影響も踏まえながら、ごみ減量化行動計画に基づく取組の修正・強化の検討・決断も考えられます。</p> <p>(3) 日本政府・全国の地方公共団体の脱炭素社会宣言など第2次環境基本計画策定時以降の市内外における状況の変化への対応が求められます。同計画の部分的な改定も一案です。</p>
	<p>P 70 出前講座の実施状況を見て、環境学習に関する出前講座の実績が思っていたより少ないと思いました。初歩から学んでみるのが大切だと思います。</p>

- | | |
|--|--|
| | <p>(1) P 2 7 リサイクル率の算出法を知りたいです。また、県の基本計画素案P 4 5 (1)のゼロエミッションを目指す3Rにリフューズ、リペアを加え、取り組むというより具体的な文を加えたい。</p> <p>(2) P 5 8 大気中のアスベストに限らず、幅広くチェックしないのか。企業への規制はあるが、家庭の排水からの有害物質が近年増加している。規制が難しいので、何が有害なのか学習し、呼びかけ、水や空気、健康を守っていくことが必要かと思う。</p> |
|--|--|